

## 竹刀検量基準 (案)

全国高体連剣道専門部は、全国大会 (総体・選抜) において、競技の安全性・公平性を図るために以下の基準で検量を行う。

### 1. 全日本剣道連盟「竹刀の基準」

	高校生	
	男子	女子
長さ	117 センチメートル以下	
重さ	480 グラム以上	420 グラム以上
太さ	26 ミリメートル以上	25 ミリメートル以上

### 2. 全国高体連剣道専門部「竹刀検量の基準」

- (1) 基準 全日本剣道連盟「竹刀の基準」、「剣道用具安全基準の検査要領」に則り、竹刀検量器具により検査する。
- (2) 隙間 数値化はしない。不自然な隙間による破損事故や試合の中断が起きないように安全面に考慮する。隙間から向こう側が見える、相手の竹刀が挟まる可能性がある等の大きな隙間は不合格とする。  
(原則、検量係で判断し、検量係で判断しにくいものについては副部長判断とする。)

【参考】 1) 竹刀製造業者による製造過程の<sup>た</sup>矯め (熱を加えて真っ直ぐにする加工) が戻ってできた隙間

→ 「合格」

2) 竹刀製造業者以外の方が手を加えたことによってできた隙間

→ 「不合格」

< 具体的に不合格となるケースの多い隙間の発生要因の過去の事例 >

- ・ 修理の際に竹刀のピースを自分自身で組み換えたことにより生じた隙間
- ・ バランス・重量調整等を目的として竹刀のピースの内側 (竹の合わせや裏面) を著しく削ったことにより生じた隙間
- ・ ささくれ等の修理で著しく削ったことにより生じた隙間
- ・ 不適切な太い先芯を使うことによってできた隙間

(3) 組み合わせ竹刀 組み合わせだけでは不合格としない。組み合わせの状態や節の位置、隙間の大きさ等、目視により総合的に安全性・公平性を判断する。

(原則、検量係で判断し、検量係で判断しにくいものについては副部長判断とする。)

(4) 彫り 名前のみ認める。それ以外 (学校名や四字熟語など) は認めない。

(5) 焼印等 竹の部分・柄の部分どちらでも認める。ただし、名前のみとする。

(6) 検印 竹の部分にシールを張る。柄には何も施さない。

(7) その他 竹のささくれや割れ、中結や弦の緩み、先革の破れ等も検査する (竹刀のピースを押して竹の破損状態を確認する場合がある)。また、押した竹刀のピースが戻らない、節の位置が大きくずれている等、竹刀の形状に関して安全性に欠ける場合は不合格とする。

(原則、検量係で判断し、検量係で判断しにくいものについては副部長判断とする。)

### 3. 補足

- ・ 不合格の竹刀は、人員配置や管理の都合上、実行委員会で預かることはしない (その場で返却する)。
- ・ 竹刀検量器具は、毎年開催地実行委員会が準備する。
- ・ 出場校は、竹刀検量の際に「剣道用具確認証」を提出する。
- ・ この「竹刀検量基準」は、令和 6 年度全国総体 (大分大会) から適用する。

以上